加古川市立平岡東小学校　学校だより

East

【学校教育目標】

自ら学び共に伸びる子の育成

No.7　　2026年11月2日

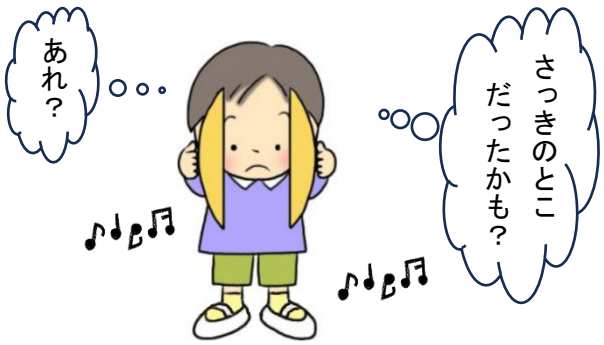
音楽の不思議　　不思議な音楽

買い物をして、店を出てからなぜか頭の中で音楽が流れていることがあります。何の曲かと思ったら、さっき買い物をした店で流れていたＢＧＭだと気づきます。ほんの数分、店の中にいただけなのに頭にこびりついてしまうのだから、そこで何時間も働いている人たちは一体どうなってしまうのでしょう？四六時中、頭の中で店内で流されている曲が鳴っているのでしょうか？　聞いたことのある音楽や歌の一部分が、頭の中で繰り返し再生されてしまう現象のことを「イヤーワーム」というそうです。けっして珍しいものではなく、９０％以上の人が経験すると言われています。１学期からずっと音楽会の練習を続けている子どもたちは、家に帰ってからも勝手に頭の中で音楽会の曲が流れていることでしょう。

こんな実験があります。被験者に、時々「ホワイト・クリスマス」がかすかに聞こえてくるはず、と事前に告げたうえで、ヘッドフォンで実際には何も入っていないただのノイズを聞かせます。すると、被験者の約三分の一がその曲を聞こえたと感じた、というのです。頭の中で想像力によって作り上げられた音は、脳内では耳で聞いた時とほぼ同じ処理がなされるので、想像上の曲と本物の曲とを混同してしまったのではないかと解釈されています。1979 年に発売されたウォークマンを始め、人々は様々な方法を開発して音楽を聴いてきましたが、人間の脳には機械に頼らなくても、もともと音楽を再生できる機能が備わっていたのですね（ただし、選曲や曲が再生される時間や場所、音量などは制御不能ですが…）。

ある時、校内で火災報知器が誤作動を起こしました。避難訓練でもないのに突然、校舎内に警報が鳴り響き、怖くて泣きだす児童もいました（今は修理済み）。地震の初期微動を捉え、大きな揺れが来る前に知らせる緊急地震速報の「ギュイッ ギュイッ ギュイッ」という警告音は、「眠っていても絶対に気づく音」として、環境音楽家の方が作曲した音です。制作の裏側を投稿すると「本当にあの音は嫌いだけど、感謝している」との返信がつきました。わざわざ忌み嫌われる音を作曲する人もいるかと思えば、こんな曲もあります。ある音楽の授業で出されたクイズです。「世界一長い曲は？」答えは「1000 年」。コンピューターがアルゴリズムを処理して演奏する仕組みで、2000 年１月１日に始まり 2999 年 12 月 31 日まで続きます。「世界一短い曲は？」答えは「０秒」。1962 年にアメリカの作曲家が発表した「0 分 00 秒」という曲です。この人は「4 分 33 秒」という曲も作っています。4 分 33 秒の間、演奏者は１音も出さず、無音の中に広がる客席のざわめきや息遣い、周りの物音こそが曲だと言い張ります。何でもアリですね。

５年生の自然学校で、ある学級のスタンツにこんなネタがありました。「関西電気保安協会」という文字を見せると、関西人は歌ってしまうはずだと。音楽には不思議な力があります。本校では掃除の時間になるといつも、エレファントカシマシの「俺たちの明日」という曲が流れます。ご家庭で一度流してみて下さい。子どもたちは、勝手に掃除を始めてしまうはずです。今月は音楽会です。子どもたちの演奏が終わった後は保護者の皆様は、自然に拍手をしてしまうはずです。スマホ片手でも拍手はできるはず、ですよね…？



一回も　音鳴らさずに　曲終わる

（校長　河合　康一）